

機関番号：18001

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720073

研究課題名（和文） 20世紀アメリカの海をめぐる文学の基礎的研究

研究課題名（英文） The Oceanic Experiences and Imaginations in 20<sup>th</sup>-century American Literature

研究代表者

山城 新 (YAMASHIRO SHIN)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：80363654

研究成果の概要（和文）：

近年、西洋文明主導によって大陸で展開されたとされる近代（モダニズム）の特質は、アジア諸文化の地政学的利点や海域ネットワークが果たした役割の重要性が指摘されることによって、再検討が迫られている。本研究では、これまで蓄積した研究代表者の研究成果を踏まえつつ、そのような近代性めぐって進行中の議論を、アメリカ文学・文化研究の場に導入したいと考える。特に、20世紀アメリカにおける海環境をめぐる文学作品を「海辺」「海上」「海中」に分類し、それぞれのサブジャンルに現れる特徴を明らかにすると同時に、20世紀アメリカ文化や思想の中で海環境や陸環境がどのように意識され、表現されたのかを中心的課題とするものである。陸地中心の価値観に基づいてこれまでのアメリカ文学作品研究がなされてきたという前提で、その陸環境偏重の傾向を「ジオセントリズム」とし、その実態を分析した。

研究成果の概要（英文）：

In this project I divided American sea literature into three categories based on the features of the oceanic environment—the surface, the edge, and the interior of the ocean—to examine how the oceanic environment and the aesthetic and thematic qualities of literature interact. This approach enabled me not only to evaluate sea literature extensively but also to reevaluate traditional American literary approaches and practices from the oceanic point of view. By reevaluating the rather underestimated roles of oceanic activities and imagination in American literature, I tried to expand the scholarship on American sea literature; while doing so, I believe my approach will lead to a re-examination of American sea literature itself as I inevitably analyze how American terrestrial/oceanic experiences and imagination correlate or compete with each other through the development of American literature and culture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：米文学、海、環境

1. 研究開始当初の背景  
本研究に着手した当時、海をめぐる文学・文

化研究はそれまでに確立されていた「海洋文学」研究の域を出ることはなかった。すなわ

ち、海洋文学とは航海や探検記を指し、欧米19世紀の時代に活躍した作家の作品に限定されていた。最近10年ほどで、「環境文学」というジャンルが隆盛し、環境について理論的・実践的に洗練された研究アプローチが台頭してきたにも関わらず、海をめぐる作品研究は依然として伝統的な作家研究あるいは作品解釈に終始することが多く、また、研究対象として除外されていることが多かった。19世紀以降、アメリカの海をめぐる文化活動はどのように展開し、表現されたのだろうか。「海洋文学」のように限定的参照枠ではなく、包括的に海をめぐる作品群を評価するためのアプローチとはどのようなものなのか。海環境は文化表現の中でどのような位相を占めるのか、陸環境と海環境の間にはどのような競合関係や力学が働いているのだろうか。このような問いに答えるべく、本研究は着手された。

## 2. 研究の目的

本研究ではこれまでの海をめぐる価値観が研究として見過ごされてきた傾向を陸地偏重主義（ジオセントリズム）であるとし、20世紀以降の海をめぐる文化的活動や政治的動向を踏まえつつ、20世紀アメリカの海をめぐる文学作品群を確認し、19世紀アメリカ文学の状況と比較対象しながら、その傾向や特徴を明らかにすることが目的である。

## 3. 研究の方法

海をめぐる作品は、これまで「海洋文学」として限定的範疇に括られてきた。本研究では海環境に関わる作品を「海辺」「海上」「海中」に分けることによって、これまでよりも更に包括的に整理した。このように3つのサブジャンルに分類された作品群の中にみられる特徴をそれぞれまとめた。

## 4. 研究成果

(1) 海環境の三次元的様相に合わせて〈海辺〉〈海上〉〈海中〉に関わる文学作品群として分別し、それぞれのサブジャンルを特徴づける文体、表現方法、テーマを以下のようにまとめた。

- ① 〈海辺〉をめぐる文学：  
〈両義性〉〈周縁性〉〈暴力性〉
- ② 〈海中〉をめぐる文学：  
〈死と歓喜〉〈自由と抑制〉〈陸の相対化〉
- ③ 〈海上〉をめぐる文学：  
〈社会階級システム〉〈移動〉〈陸と海の価値観の対立〉

(2) それぞれのサブジャンルの特徴は、表

現、文体、テーマとも、海環境の物理的様相と密接に関係し、時代によって海と人間の関わり方の多様な変化がみられた。以下がそのまとめの概要である。

① 〈海辺〉をめぐる作品：〈海辺〉のもつ特質は19世紀以前にはアメリカ社会の様々な周縁的価値観を表現する場として機能していた。海辺は19世紀後半に海水浴やビーチコーミングの場としての〈ビーチ〉として変容し、20世紀に入るとサーフィン文化に代表されるようにカウンターカルチャーの活発な活動場所となっていった。いわゆるビート世代によって代表される50年代や60年代のアメリカ大衆文化が陸地中心の知的文化を代弁する側面があったのに対し、ビーチにおけるカウンターカルチャーは粗野で反社会的で無教養的側面が強調される。

② 〈海中〉をめぐる作品：19世紀中は潜水艇についての実験あるいは空想以外にはほとんど書かれず、スキューバダイビングが普及する1950年代に作品数・質ともに激変する。20世紀的空間としての海中は精神性や崇高性や死をイメージ化する側面を持つ一方で、第二次世界大戦や冷戦下の原子力潜水艦開発競争など、水面下で政治的・軍事的役割を担い、陸上の価値観や諸活動を補完し強化していった。例えば、19世紀末に収束したとされるフロンティアの希求は20世紀をとおして、海中で展開されていた側面がある。

③ 〈海上〉をめぐる作品：それまで商業、経済、政治の為の航海技術が19世紀後半からスポーツとして航海術が競われるようになる。20世紀における海上の体験は19世紀的な価値観をノスタルジックに代弁し、同時に近代化の到来を補完的に表現するアプローチも提示するようになった。文化研究においてはPaul Gilroyの*The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness* (1993)では、従来の西洋中心の近代化をアフロアメリカンの視点から批判的に検討している代表的研究例であり、経済史研究ではKenneth Pomeranzらのカリフォルニア学派が、アジア地域を中心とする海域交流を重視する立場から従来の西洋中心の世界システム論を批判しているのは、海上のアプローチが近代性を批判的に再検討する例として挙げられる。

(3) 以上を踏まえ、これまでの19-20世紀の海をめぐるアメリカ文学の研究は次のように総括される。

19-20世紀アメリカ社会では、技術の発展や経済基盤の変化が急速に進み、人々の

海環境への関わり方も多様化し、そして「大衆化」した時代であった。結果としてこの時代に多様な海の文学が生まれていくことになり、その中には従来の一般的アメリカ文学・文化理解に再検討を迫る作品例や文化的現象が多くみられた。

たとえば、19世紀にハワイ伝統文化として西洋に発見されたサーフィン、ハワイの植民地化と同時に20世紀的文脈で非西洋的（非キリスト的）伝統文化として一度淘汰されてしまったようにみえたが、近代以後のアメリカ西部を起点としてカウンターカルチャーとして再生・再来し新たな展開を見せることになった。

しかしながら、この現象は一方でビート世代が20世紀アメリカ西部のカウンターカルチャーの担い手として代名詞的に用いられることを考えると、カウンターカルチャーの内部でも、海をめぐる文化的諸活動（サーフ文化）が除外されながら、「路上」や陸地の価値観（ビート文化）が優位性を持つに至るというジオセントリズムの構造を見ることが出来る例としても考えられる。そもそも、ビート世代の芸術家たちが海を渡って異文化を体験しつつ、自らの表現を模索し続けたこと自体は、海域を介した体験として、海をめぐるトランスパンフィックな文化活動と関連付けられるはずである。

このことは、単にビート世代の経験を支える文脈を海を含めて再配置すること必要性のみを含むのではない。海をめぐる価値観を踏まえ、我々は近代と近代以後の文化プロセスをどのように総括し、再考できるかを問題提起している。そして、アメリカの現代文化が、どのように近代とともにジオセントリズムを受け入れたかという大きな問題を射程に入れなければならないのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Yamashiro, Shin. “The Roles of Public Health, Agriculture, Natural Resources Development in Postwar Okinawan Environmental History from 1945 through the 1950s. *International Journal of Okinawan Studies*. 査読無3 (2011):14-37.
- ② Scott Slovic, Serenella Ivolino, and Shin Yamashiro. “Part III Water: Freedom and Restraint” “Introduction: Special Issue on Water.” *Concentric: Literary and Cultural Studies*, 査読無、34.1、2008、

13-19.

[学会発表] (計4件)

- ① 【招待講演】 Shin Yamashiro, “New Directions in Ecocriticism in Asian Environmental Literature” “Ecological Literature and Environmental Education.” (北京大学・中国) 2009年8月14日-20日.
- ② 【招待講演】 Shin Yamashiro, “The Land and Sea Interactions in Ecocriticism” Tamkang University Workshop: “Eco-Philosophy and Future Direction for Ecocriticism” (淡水大学、台湾) 2009年7月15日-17日.
- ③ Shin Yamashiro, “Ecocriticism Underwater: A Study of Aquascapes of Jacques Yves Cousteau and Steven Harrigan” III Biennial EASLCE Conference: “Cultural Landscapes: Heritage and Conservation” Universidad de Alcala, (アルカラ大学・スペイン) 2008年10月16日-19日.
- ④ Shin Yamashiro, “The Submarine Nautilus in 1790s, in 1870s, and in 1950s: A Recapitulation of the American Frontier in Submarine Narratives and Experiences” Tamkang International Conference on Ecological Discourse (淡水大学、台湾) 2008年5月24日.

[図書] (計4件)

- ① 山城 新、「アメリカの深海フロンティア」『〈移動〉のアメリカ文化学』、山里勝己編、東京、ミネルヴァ書房、2011年、67-84.
- ② 山城 新、「石川ビーチと汚染の構造」『沖縄・ハワイ：コンタクトゾーンとしての島嶼』石原昌英、喜納育江、山城 新編 東京：彩流社、2010年、219-238.
- ③ 石原昌英、喜納育江、山城 新編 『沖縄・ハワイ：コンタクトゾーンとしての島嶼』石原昌英、喜納育江、山城 新編 東京：彩流社、2010年
- ④ 山城 新、「海の文学：海への視点、海からの可能性」、『知の津梁：やわらかい南の学と思想』沖縄：沖縄タイムス社、2010年、64-75.

[その他] (計1件)

- ① “Richard Henry Dana, Jr.” *The Literary Encyclopedia*  
<http://www.litencyc.com/php/speople.php?rec=true&UID=1126> Sep. 2010.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山城 新 (YAMASHIRO SHIN)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号：80363654